

令和 8 年 7 月 2 4 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立河南小学校	米原市立教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立河南小学校	https://kanan-e-maibara.edumap.jp/page_20200625223451

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市立 河南小学 校	https://kanan-e-maibara.edumap.jp/page_20200625223451	https://kanan-e-maibara.edumap.jp/page_20200625223451

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

- ・ 参観日に英語科の学習を参観いただき、保護者の理解を図っている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は小規模な単学級校であり、児童同士が長年にわたって同じ集団で生活するため、人間関係が固定化しやすいという特徴がある。児童は素直で親しみやすい一方で、互いを固定的な見方で捉えやすく、自分の新たな一面を表現することや、自信をもって他者と関わることに課題が見られる。

そこで、英語科の学習を通して、英語をコミュニケーションの手段として活用し、自分の考えや思いを表現したり、相手のことを知ろうと積極的に関わったりする力の育成に取り組んでいる。学習の中では、自分自身や身近な事柄について伝え合う活動を取り入れ、互いのよさやこれまで知らなかった一面に気付くことができるよう工夫している。また、6年生では、修学旅行等の機会を活用し、外国の方へのインタビューを行うなど、実際の場面で英語を用いる体験的な活動を設定している。

こうした取組を通して、児童が英語で伝わる喜びを味わい、自信をもって人と関わろうとする姿が見られるようになってきた。学校評価アンケートにおいても、英語科の学習に対する保護者からの肯定的な評価が得られており、本校の特色ある教育活動として一定の理解と評価を得ている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

全国学力・学習状況調査や学校評価アンケートの結果を見ると、児童の自己評価や主体的に学習へ取り組む姿勢に関する項目について、以前は全国平均を下回る回答が見られたものの、近年は肯定的な回答が増加傾向にある。

英語科では、ペアやグループでのやり取り、相手意識をもった発表、実際の場面を想定したコミュニケーション活動を継続して取り入れている。その中で、児童が「伝わった」「分かってもらえた」という達成感を味わい、自分の考えを表現することへの自信や、他者と積極的に関わろうとする態度が育ってきている。これらのことから、英語科の取組は、児童の主体性やコミュニケーション能力を育むとともに、自己肯定感を高める上でも一定の効果을上げていると考える。

4. 課題の改善のための取組の方向性

児童が英語を実際のコミュニケーションの手段として活用する機会を充実させるため、外国の学校との直接的な交流が難しい場合には、ICTを活用したオンライン交流の実施について検討する。ビデオ通話や作品・動画の交換、共通のテーマに基づく共同学習などを通して、互いの言語や文化に触れ、多様な考え方への理解を深められるようにする。

また、児童が英語を学ぶ意義や楽しさを実感できるよう、旅行や買い物、道案内、日常会話など、実際の生活場面を想定した言語活動を積極的に取り入れる。児童が目的や相手意識をもち、既習の表現を活用しながら自分の考えや思いを伝える学習を充実させることで、英語によるコミュニケーションへの意欲を高めていく。

教員の英語指導力には差が見られることから、校内研修や授業研究、教材や実践事例の共有などを通して、指導方法について学び合う機会を設ける。また、学級担任と英語指導助手が授業のねらいや児童の実態を事前に共有し、それぞれの役割を明確にすることで、より効果的な授業づくりを進め、児童の英語による表現力やコミュニケーション能力の向上を図る。